

ロシア（極東）

拡大基調にはあるものの不安要因も

ロシア経済は2000年上半期も鉱工業生産(前年同期比10.3%)、投資(同11.4%)、小売売上高(同7.6%)等の各指標に見られるように、拡大を続けている。しかし、ロシア極東では様相が異なる部分もある。

鉱工業生産は、全体としては、全国と同様に増加傾向にある。産業の集中する沿海地方やハバロフスク地方で比較的高い増加率となっている。鉱工業の中での不安要因は、主要産業である水産業の低迷である¹。漁獲高は、沿海地方で前年同期比 24.9%、カムチャッカ州で 8.0%、サハリン州で 7.4%など、沿岸部の諸地域で軒並み減少している。仮に、これが統計の捕捉率低下によるものであるとすれば、ヤミ操業が増加していることになる。水産物は日本の対口輸入の約3割を占める主要品目であり、不透明な操業・取引形態の拡大は、日ロ貿易の活性化の観点からも好ましくない²。後述するプーチン大統領の演説でも指摘されている問題である。

一方、小売売上高は増加しているものの、その伸びは全国平均の約1/3にとどまっている。極東の各地方とも実質貨幣収入が全国平均に比べ低迷しており、それを反映しているものと思われる。もともと極東経済は域外需要に依存しており、域内消費の低迷がそのまま景気のブレーキになるわけではないが、ロシア経済全体が好景気の中で、極東が取り残される恐れもある。

プーチン大統領が極東各地を訪問

7月21日、プーチン大統領は沖縄サミット直前に立寄ったアムール州で、「極東ザバイカル地域発展の展望」と題する演説を行った。サミットからの帰路にはカムチャッカ州を、9月3日の公式訪日直前にはサハリン州を訪問している。首相時代の1999年10月にはハバロフスク地方、沿海

地方を訪れており、この1年で極東の主要地域をほぼ網羅したことになる。

アムール州での演説では、1996年策定の「極東ザバイカル長期発展プログラム」の実施状況に不満を示した上で、資源を集中投入すべきだと述べた。具体的には、域内のエネルギー供給問題、鉄道や道路などインフラ整備の重要性、国外市場への水産・林産資源の「流出」問題を指摘した。その一方、エネルギー輸出や国際トランジット輸送等の国際経済協力については触れておらず、トーンとしては、ロシア極東経済がロシア経済から切り離されることを危惧する内容であった。「数十年後には、この地域のロシア人が日本語、中国語、韓国語を話すようになってしまうかもしれない」とまで述べている。

一方で、9月の公式訪日の際に署名した森・プーチン・プランでは、橋本・エリツィン・プランには無かった「地域レベルの協力」という項目や、極東・シベリアの森林資源や海洋生物資源に関する協力が新たに盛り込まれた。また、サハリンプロジェクトやシベリア鉄道近代化、ザルビノ港開発など、個別プロジェクト名を明示しており、極東での経済協力重視が見て取れる。

就任以後の北東アジア積極外交を見ても、プーチン大統領がこの地域での国際経済協力を否定的であるという見方は成り立たない。先述の演説は、とすれば、ロシア極東の将来発展をすべてアジア・太平洋地域との関連で議論しようとする傾向に対して警鐘を鳴らし、ロシアの主体性を求めたものと言えよう。ロシア極東歴訪でその現状や課題についての理解を深めたプーチン大統領が、今後、いかに実効性のある「モスクワ主導の」極東経済発展策を打ち出すかが注目される。

(ERINA調査研究部研究員 新井洋史)

	鉱工業生産 [2000年上半期] (対前年同期比、%)	小売売上高 [2000年上半期] (対前年同期比、%)	消費者物価 [2000年6月] (1999年12月比、%)	実質貨幣収入 [2000年5月] (前年同月比、%)	外国投資 [2000年第1四半期] (百万ドル)	参考:地域総生産 [1997年] (対全国比、%)
サハ共和国	7.6	0.5	8.3	1.3	43.1	1.29
沿海地方	8.9	1.6	7.6	5.1	10.5	1.32
ハバロフスク地方	12.8	2.3	10.2	1.1	3.4	1.36
アムール州	4.5	1.3	7.6	2.4	3.4	0.68
カムチャッカ州	7.8	3.5	15.0	0.8	2.4	0.35
マガダン州	1.2	1.7	11.1	1.0	2.3	0.28
サハリン州	5.7	17.6	6.4	6.3	43.3	0.58
ユダヤ自治州	20.5	0.4	8.0	0.9	0.1	0.06
チュコト自治管区	1.3	26.4	17.9	40.9		0.10
極東		2.4	8.3		108.4	6.01
ロシア連邦	10.3	7.6	9.5	8.3	2,445.9	100.00

出所:ロシア国家統計委員会ウェブサイト(<http://www.gks.ru>)、「ロシアの地方1999」

¹ ロシアの統計は、「鉱工業生産」の分類に鉱業、水産業、林業等の採集産業の生産を含む。

² 1998年の日本のロシアからの水産物輸入は、日本側統計で9億ドル弱、ロシア側統計で1億ドル強と、約7倍の差がある。